

第5回放射線と健康についての福島国際専門家会議
福島における甲状腺課題の解決に向けて～チェルノブイリ30周年の教訓を福島原発事故5年に活かす

主催： 日本財団
共催： 福島県立医科大学、長崎大学、笹川記念保健協力財団
後援： 福島県（予定）、広島大学、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会

9月26日（月）

※時間、報告者、題名等は変更する可能性があります。

	プログラム	会場
9:00	開会の挨拶 ・笹川陽平 日本財団 会長 ・菊地臣一 福島県立医科大学 理事長兼学長 ・畠利行 福島県 副知事	安達太良Ⅰ・Ⅱ
9:30	セッション 1 チェルノブイリの教訓：原発事故から30年、国際的コンセンサスと甲状腺癌に関するエビデンスから放射線リスクを考える 座長 ・ジャンナット・カー 世界保健機関 ・ウラジミール・サエンコ 長崎大学 基調講演1 ・ヴォルフガング・ヴァイス ドイツ連邦放射線防護局（ドイツ）：チェルノブイリ原発事故から30年：UNSCEARの科学的報告書に基づく甲状腺癌リスクの概要 基調講演2 ・長瀧重信 長崎大学：チェルノブイリ原発事故から30年：日本からの貢献 報告者 ・ミコラ・トロニコ 内分泌代謝研究所（ウクライナ）：ウクライナにおける事故後の甲状腺癌の特徴 ・ヴァレンティナ・ドロツ ペラルーシ卒後教育医学アカデミー（ペラルーシ）：ペラルーシにおける事故後の甲状腺癌の臨床的特徴とフォローアップ ・ヴィクトル・イワノフ 国立医学放射線研究センター（ロシア）：ロシアにおける事故後の甲状腺癌の疫学調査結果 質疑応答とまとめ	安達太良Ⅰ・Ⅱ
12:15	昼食	
13:30	セッション 2a 甲状腺癌：チェルノブイリの事実 座長 ・ジュリー・トーマス インペリアル・カレッジ・ロンドン（英国） ・山下俊一 長崎大学 報告者 ・ユーリ・デミツチック ペラルーシ卒後教育医学アカデミー（ペラルーシ）：ペラルーシ甲状腺癌の臨床病理学的特徴 ・パーヴェル・ルミヤンツェフ 内分泌研究センター（ロシア）：ロシア小児甲状腺癌の術後長期観察 ・タチアナ・ボグダノワ 内分泌代謝研究所（ウクライナ）：ウクライナ甲状腺癌の病理診断の特徴 ・クリストフ・ライナース ビュルツブルグ大学病院（ドイツ）：チェルノブイリ甲状腺癌の術後放射線治療 質疑応答とまとめ	安達太良Ⅰ・Ⅱ
15:30	休憩	
16:00	セッション 2b 甲状腺癌：福島の課題 座長 ・クリストファー・クレメント 国際放射線防護委員会 ・丹羽太真 放射線影響研究所 報告者 ・ジュリー・トーマス インペリアル・カレッジ・ロンドン（英国）：遺伝子解析から見た甲状腺癌 ・アン・ヒョンシク 高麗大学校医学部（韓国）：韓国の原子力発電所周辺地域における甲状腺癌の発症 ・杉谷巖 日本医科大学：日本の甲状腺癌の臨床的特徴 ・大津留晶 福島県立医科大学：県民健康調査事業の甲状腺結果報告 ・鈴木真一 福島県立医科大学：福島甲状腺癌の特徴 ・緑川早苗 福島県立医科大学：県民健康調査事業の甲状腺検査の課題 質疑応答とまとめ 19:00 終了	安達太良Ⅰ・Ⅱ

9月27日（火）

	プログラム	会場
8:30	セッション 3 チェルノブイリから福島へ 座長 ・ジョン・ボイス 国立放射線防護測定委員会（米国） ・谷川攻一 福島県立医科大学 基調講演 ・ジョン・ボイス 国立放射線防護測定委員会（米国） ・アベル・ゴンザレス アルゼンチン原子力規制委員会（アルゼンチン）：放射線被曝による小児甲状腺がん発症率の再評価 報告者 ・ジャンナット・カー 世界保健機関：ヨウ素剤による甲状腺ブロックを用いた甲状腺癌の予防：WHOの視点より ・アベル・ゴンザレス：福島第一原発事故の放射線影響に関する国際的な評価：IAEA報告書 ・マルコム・クリック 原子放射線の影響に関する国連科学委員会：UNSCEAR福島レポート ・ジャック・ロシヤール 国際放射線防護委員会：ICRP福島レポート ・アウスラ・ケスミニエン 国際がん研究機関：LARCによる研究報告：チェルノブイリから福島まで 質疑応答とまとめ	安達太良Ⅰ・Ⅱ
12:00	休憩	
12:30	テーブルディスカッション 座長 ・ジュリー・トーマス インペリアル・カレッジ・ロンドン（英国） ・長瀧重信 長崎大学 テーマ 放射線と甲状腺癌リスク：福島への提言	安達太良Ⅰ・Ⅱ
13:20	閉会の挨拶 ・谷川攻一 福島県立医科大学 副理事長	安達太良Ⅰ・Ⅱ
13:30	記者会見	安達太良Ⅰ・Ⅱ